

## 本庄一夫名誉教授追悼記念講演会を開催して

京都大学外科学教室 戸部 隆吉

京都大学名誉教授・関西医科大学理事長故本庄一夫先生が、昭和62年12月27日に御逝去されて、はや2年を迎えようとしております。

先生は昭和24年（1949年）3月、肝右葉全切除術を世界に先駆けて、また同年12月、脾全摘術を Rocky におくれること8年、我国ではじめて施行され、肝・胆・脾外科の大先達として、多くの業績を残されました。

困難な症例の手術に向っては常に敢然と立向われた先生の、外科医としてのご姿勢には、常に教わる場所が多く、先生の御指導を受けられた門下生の多くが、現在日本消化器外科学会の指導者としてご活躍中であります。特にその中でも、土屋涼一教授、中瀬明教授、水本龍二教授、小澤和恵教授、鈴木徹教授は、本庄一夫先生の直接の御指導と御薫陶を受けられ、しかも先生の御業績を更に発展させ、御自身の領域を確立しておられます。

本庄一夫先生の3周忌を前に、平成元年12月3日追悼記念講演会を開催致しましたところ、ずばらしいご講演をいただきました。

ここに、本庄一夫先生の御遺徳を偲び、諸先生の講演の要旨をまとめることに致します。